

高連協活動

国民運動新提案 「よりよい高齢社会をめざすイベント月間」

[1] 2013・5・13

平成25（2013）年度高連協総会 ディベートより

2013・5・13 15:00～16:00

日本プレスセンター9F 日本記者クラブ宴会場

提案者 岡本憲之氏 JTTA理事長 発言

団塊世代の岡本でございます。機会があればと思っておりましたが、今日は多くの高齢社会関係団体が参加している高連協の役割について、少し違った角度からご提案をさせていただきますと思っております。

高連協参加団体のひとつひとつ、樋口・堀田両代表がやっておられる「高齢社会をよくする女性の会」にしても「さわやか福祉財団」にしても、素晴らしい活動をされています。それ以外の団体もそれぞれにみなさん活動されているわけですが、若い立場であえて失礼なことを申しあげさせていただくと、各団体の活動はややもすると当該団体の関係者の範囲にとどまってしまっているのではないかと、という印象を持っております。より広く一般の人びとあるいは国民的な活動・運動にまで広がっていないのではないかなという気がいたしております。そこで個々の団体の活動が国民的な活動・運動にまで繋がるためのしかけが必要ではないかと思っております。

例が適切かどうか分からないのですが、参考になるのが「バレンタインデー」です。個々のチョコレートメーカーは日々、チョコレートを製造・販売しておりますが、それはあくまで各チョコレートメーカーの活動です。しかし2月の「バレンタインデー」にむけた期間、明らかに様相が異なって、少なくともその期間は個々のチョコレートメーカーの活動が、国民的活動とか運動と結びついているのではないかと。結果的には明治も森永もロッテも、だいたいその期間に年間の半分以上の売り上げを稼いでいます。

それは余談ですけども。ここでの提案というのは、9月の第3月曜日の「敬老の日」とか10月1日の「国際高齢者デー」をふくむ9月から10月を中心にしてその前後も含めた期間を、たとえば「よりよい高齢社会をめざすイベント月間」とかイベント・シーズンとして定めてはどうか。単に老人とか高齢者だけではなくて、若者世代もふくめて「高齢社会・日本」で暮らすすべての世代の人びとが、よりよい高齢社会づくりについて考え行動する、それを促す啓発期間という考え方でございます。少なくともその期間は、個々の団体の活動が国民的活動・運動に結びつくのではないかと、考えた次第でございます。実はそういった運動を盛り上げることこそ、多くの高齢社会活動の団体が参加する高連協の役割ではないかと思うわけです。

本日、やや荒唐無稽といわれるかもしれませんが、あえてご提案申しあげた次第でございます。発言の機会を与えてくださいます、ありがとうございました。(拍手)

[2] 2013・7・1

よりよい高齢社会づくりを目指す

「菊リボン運動」の提案

(高齢化が進むわが国において1つの提案を致します)

2013/07/01

J T T A 理事長 岡本憲之

高齢化が進むわが国において、高齢社会をよりよくしようと頑張っている諸団体の1つ1つは、それぞれが素晴らしい活動を行なっていると思います。しかし各団体の活動は、ややもすると当該団体の関係者の範囲に止まってしまっているのではないのでしょうか。より広く一般の人々の認知と理解を得た活動、すなわち国民的活運動にまで広がっていないような気がします。したがって個々の団体の活動が、国民的活動にまで繋がるための仕掛けが必要ではないかと考えます。

そこで提案ですが、毎年9月中旬から11月頃までを、全ての世代に優しい、明るく活力のある、「よりよい高齢社会づくり」を目指す運動の期間と定めます。ちなみに9月15日の「老人の日」から始まる「老人週間」、9月第3月曜日の「敬老の日」、10月1日の「国際高齢者デー」、長寿を願う重陽の節句(旧暦9月9日)などもこの期間に含まれます。

その期間を、よりよい高齢社会づくりを目指す「菊リボン運動」シーズンと称し、高齢社会をよくするために活動する人々は、「菊リボン」(菊の模様をデザインしたリボン)を着用することにしてはどうでしょうか。

つまり、この「菊リボン」を、単に高齢者だけではなく、若者世代も含め、高齢社会日本で暮らす全ての世代の人々が、「よりよい高齢社会づくり」について考え、行動するよう促し、その活動を応援するシンボルと位置づけることにします。

結果として、少なくとも「菊リボン運動」シーズンの期間は、個々の団体の活動が国民的運動に結び付くのではないかと考える次第です。

(NPO 日本シンクタンクアカデミー 情報発信「毎月コラム」2013年7月)

[3] 2013・8・7

高連協 8月理事会

2013年8月7日（水）

検討事項

「よりよい高齢社会づくりを目指した総合的活動月間の創造」

岡本憲之氏の報告から討論

「期間」 より多くの人に関心をもってもらうためには「期間」は幅が広いほうがいい。あまり広すぎると「期間」といったまとまりの意味合いがなくなる。そこで、イメージ的には秋の季間で「9月中頃から11月いっぱい」を包含しておけば、主なイベントはかなり入る。逆にいうと週間とか月間とかに狭くしてしまうと入らないものが増えてしまう。秋口の9月15日「老人の日」を開始日として「敬老の日」など9月中頃に山。10月中頃「孫の日」（百貨店協会）などに二つ目の山。11月はじめ「菊づくり」「菊まつり」の実物で三つ目の山。

「スローガン」 まず「スローガン」を考えて、その「スローガン」のもとに個別の取り組みがあるという、そのトップ概念をつくる。いちばん上位にあるそれを高連協みんなで考えて、各団体に共有してもらえばいい。「高連協参加団体が協力できるテーマを設定して取り組む」（鷹野）ことになる。若い世代もふくめた全世代にとって「よりよい社会」を打ち出すのがいい。「高齢社会」よりは「長寿社会」のほうがいい。「世代をつなぐ長寿社会」「すべての世代が支える長寿社会運動」「三世代共生社会」。

「シンボル」 「スローガン」とともに「シンボル」を何にするか。「バッジ」（吉田）をつくる。「バッジ」は一年中つけられる。だれがつけてもいい。高連協が打ちだした普遍的長寿へのスローガンがついている「バッジ」にする。300円から500円にして高連協で売るのもいい。羽根（佐方）、菊リボン（岡本）。菊は重陽の日のシンボルで長寿を祈る。高連協の参加団体がまずつける。世代間を思いやる。子どもが関心をもつ。

[経緯] 5月13日の高連協総会ディベート、6月18日の高連協編集の会で議論があつて、岡本氏が整理している。岡本氏のまとめを受けて、次の9月11日の高連協理事会で検討。

「スローガン」 「すべての世代が支える長寿社会運動」「世代をつなぐ長寿社会運動」
「三世代共生社会」

「シンボル」 菊リボン 羽根 バッジ（年間通じてのイベントに）

「シーズン」 9月中旬（15日開始）から11月いっぱい 季間運動

（堀内正範 追記）

[4] 2013・9・11

日本シンクタンクアカデミー

岡本憲之

2013/9/11

全ての世代が支える全ての世代のための

全員参加の高齢社会づくり運動

秋の「菊リボン運動」の提案

(高齢化が進むわが国において1つの提案を致します)

そもそも高齢社会をよりよくしようと頑張っている諸団体の1つ1つは、それぞれが素晴らしい活動をしていると思います。しかし各団体の活動は、ややもすれば当該団体の関係者の範囲にとどまってしまっているのではないのでしょうか。より広く一般の人々、国民的運動にまで広がっていないような気がします。したがって個々の団体の活動が、国民的運動にまで繋がるための仕掛けが必要ではないかと考えます。

そこで提案ですが、毎年9月中旬から11月中旬までを、全ての世代が支える全ての世代のための、「全員参加の高齢社会づくり」を目指す運動の期間と定めます。ちなみに9月15日の「老人の日」から始まる「老人週間」、9月第3月曜日の「敬老の日」、10月1日の「国際高齢者デー」、長寿を願う「重陽の節句」(旧暦9月9日)などもこの期間に含まれます。

この期間を、よりよい高齢社会づくりを目指す秋の「菊リボン運動」シーズンと称し、高齢社会をよりよくするために活動する人々は、「菊リボン」(菊「=不老長寿のシンボル」の模様をデザインしたリボン)を着用することにはどうでしょうか。

つまり、この「菊リボン」を、単に高齢者だけではなく、若者世代も含め、高齢社会日本で暮らす全ての世代の人々が、全ての世代の人々のための、明るく活力ある高齢社会、すなわち「全員参加の高齢社会づくり」について考え、行動するよう促し、その活動を応援するシンボルと位置づけることにします。

結果として、少なくとも秋の「菊リボン運動」シーズンの期間は、個々の団体の活動が国民的運動に結び付くのではないかと考える次第です。



秋の「菊リボン運動」シーズンのイメージ

イメージ

- ・毎年9月15日から始まる「老人の日・老人週間」を皮切りに、11月中頃までの期間に、高齢社会に関わる様々なイベントが催される。ただ従来の老人週間などは、単なる「高齢者のためのイベント」といったイメージが強く、必ずしも全ての世代が参加する国民的運動として盛り上がっていない。目指すは全ての世代が支える、全ての世代のための、「全員参加の高齢社会づくり」である。
- ・この菊リボンをシンボルとして毎年9月中旬から始まる運動は、例えば赤い羽根をシンボルとして毎年10月1日から始まり12月まで続く共同募金運動のようなイメージ。
- ・高齢社会検定の実施時期を、この9月中旬のシーズンが始まる時期に合わせ、毎年「大学入試センター試験」を号砲として「受験シーズン」が始まるように、毎年「高齢社会検定試験」を号砲として「菊リボン運動シーズン」が始まるような流れをつくる。

イベントの例

啓発イベント

- ・高齢社会検定 →9月
- ・高齢社会フォーラム（内閣府&高連協）→地方開催は10月
- ・高年齢者雇用開発フォーラム&コンテスト（高齢・障害・求職者雇用支援機構）→10月
- ・高齢者就労シンポジウム（高齢者活躍支援協議会）→10月開催は可能
- ・AGING FORUM（国立長寿医療研究センター&日経BP）→11月

展示イベント

- ・オヤノコト.エキスポ（オヤノコトネット）→7月（開催時期の変更は可能か？）

運動イベント

- ・ねんりんピック（長寿社会開発センター）→10月
- ・ウォーキング大会（日本ウォーキング協会）→不特定（開催時期の変更は可能か？）

交流イベント

・

その他

[5] 2013・9・11

高連協 9月役員会

2013年9月高連協役員会議事録（案）

日 時：2013年9月11日（水）14：30～17：02

会 場：エイジング総合研究センター会議室

2. 検討事項

(3) よりよい高齢社会づくりを目指した総合的活動シーズンの創造

——よりよい高齢社会づくりをアピールする運動のシンボル化の内容の検討状況報告

岡本理事より、配布資料「秋の＜菊リボン運動＞シーズン」にもとづき、よりよい高齢社会づくりを目指した総合的活動シーズンの創造に向けた検討状況について報告。これについては、「既にいろいろ使われている」、「イメージ面で抵抗がある」等から、「菊」をこのシーズンのシンボルとすることについての反対意見が述べられる一方、季節に応じて色を変える「紅葉」こそ、シンボルに相応しいとの意見が吉田専務理事より出され、多くの役員が賛意を表した。また、本年はそのシーズンに入っている中で、高連協の中で早急に検討グループをつくり、具体的な検討を行い、実施に向けて動いていくべきだとの意見もあった。（玉木康平）

高連協 9月役員会 [追補] (堀内正範)

岡本氏から上記「全員参加の高齢社会づくり運動 秋の「菊リボン運動」の提案説明

◎活動戦略

上原：・エンドを切る。 ・有識者会議をつくる。 ・賛同者を集めて核になる5人くらいで岡本事務局をスタート。 ・ここまでできたというところで高連協へ持ってくる。 ・この議論では決まらない。 ・議論してきて○にすればいい。

吉田：・要望を作って個々に電話して賛同をもらって。樋口方式で。

鷹野：・少人数で原案をかためてスタート。間に会うところから使う。 ・できたら高連協中心で。

中上：・主催者は？

堀内：・岡本さんのところで基本的メンバーをあつめる。 ・それを高連協が支えていく。 ・高齢社会活動は時流でなく潮流なので、きちんと筋をたててやればいつスタートしても可。

岡本：・国民運動なので。 ・高連協のコンセンサスを意識したので。 ・岡本が勝手に動けというなら。

◎キャッチフレーズ 岡本報告 全ての世代が支える全ての世代のための 全員参加の高齢社会づくり運動

吉田：・堀田さんは立派に生きてみせよう　・普遍的長寿社会　・いまや高齢社会は使いづらい。

岡本：・上記。

◎シンボル 岡本報告 菊リボン

上原：46種のリボンバッジがある。　・16弁に注意して菊でいい。

鷹野：・菊はどうも。　・皇室・安倍内閣の再軍備　・終戦時に強い否定の記憶。

吉田：・菊は軍艦の頭についていた。　・中国の節句で菊は先行されている。　・もみじバッジ（年齢別色分け。90歳で真っ赤に。樋口さんはまだ橙色）はどうか。　・もみじは秋のシンボルで雅展や国際的にも日本の特徴。

堀内：・経緯として菊はサンプルとして出したもの。　・春サクラ秋モミジはある。

岡本：・菊は評判がよくない。　・もみじあるかと。

◎シーズン 岡本報告 9月中旬から11月中旬まで。

吉田：・漢字でつける。旬間とか。

岡本：・だいじなものが落ちないように長目にした。

◎参加団体・イベントの例 岡本報告 上記

岡本：・9月14日「高齢社会検定試験」　・9月15日「老人の日」　・15日～21日「老人週間」　・9月第3月曜日「敬老の日」　・10月1日「国際高齢者デー」　・旧暦9月9日「重陽の節句」　・上記の各種イベント。　・うまく

吉田：・高連協の秋フォーラムや高齢者活躍支援協議会などを中心におくと10月が中心。　・来年、再来年には次第に寄ってくる。　・展示会、ARPなどは共催に。　・メモを出してほしい。

[6] 高連協10月役員会 [メモ] (堀内正範)

日時：2013年10月9日(水) 14:30~17:00

会場：エイジング総合研究センター会議室

2. 検討事項 1) よりよい高齢社会づくりを目指した総合的活動の展開について——
よりよい高齢社会づくりをアピールする運動のシンボル(スローガン、記章)の検討

岡本から報告：遅々として進んでいる程度。改訂した細かい内容はともかく、「三つのポイント」があって、

◎1 スローガン 「笑顔あふれる長寿社会づくり」

◎2 シンボル もみじバッジ 笑顔のデザイン

◎3 (キャンペーン) 期間 9月中ごろから11月中ごろ

がそれぞれの提案。これまでの活動は「高齢者のための」が強すぎるので、世代を越えた現役世代、若い世代も参加できるようなものにしたい。

吉田：岡本さん、佐方さんとは来てもらって打ち合わせをしている。きょうの資料として、「共用品推進機構」の星川安之さん(オヤノコト・ネットを企画した人で、後藤芳一さんとの共著『共用品という思想』がある)のアドバイスでつくった「**ピンバッジ**作成プロジェクト」(次ページ)を用意した。「誰もが笑顔、長寿社会 宣言」や「誰もが笑顔、長寿社会 推進者5ヶ条(案)」など。いろいろなバッジのサンプルも持ってきてくれた。シンボルは「もみじバッジ」にしたい。緑と真っ赤なもみじを重ねて、付け根でひとつに止める。それで岡本さんのいう世代間の交流を表す。四つ折りの紙に、スローガンや何か条かをやさしいことばで刷りこむ。

上原：わたしのところでは「あったか介護」の7カ条。

吉田：持ってきてくれたバッジではリュウマチ・バッジがしゃれている。もみじ葉重ねのデザインで、原価に高連協の上乗せをして会員団体に卸す。各団体もとり分をのせて、500円で販売する。高連協の事務局長の交通費くらいは出せるようにしたい。

上原：販売促進でやるとなると頑張ってくれる。岡本さんの提案では、期間で重点的にやってしまうとバッジは使い捨てになる。

吉田：協力してくれる団体は、高連協のスローガンをサブタイトルにすることなら協力してくれる。この期間にやってくれといってもやれない。文科省、経産省、厚労省それぞれ自分たちのイベント期間をもっている。自分たちのきめた期間にこだわる。

上原：バッジはバッジですすめて年中使う。その上でキャンペーンでなくて期間としてイベントをいれていく。

岡本：スローガンとバッジは年中でいい。バッジを一年中つけるのはいいが、国民が注目してくれる日や期間がないとローカルなところで終わってしまう。提案したのは、せっかくの活動がばらばらで注目されていない。「バレンタイン・デー」の2月14日近くにチョコ

高齢社会NGO連携協議会 「ピンバッジ」作成プロジェクト



2013年10月9日
公益財団法人 共用品推進機構

誰もが笑顔、長寿社会 宣言

どの国よりも早く、長寿社会に突入した日本は、多くの国の教師になるか反面教師になるか、多くの国から注目されています。

年齢にかかわらず、誰もが暮らしやすい長寿社会を作っていくためには、世代を超えそれぞれが臨機応変な工夫を重ねその工夫を共有化し、実施することが長寿社会先進国の役目だと思います。

誰もが暮らしやすい社会を
誰もが笑顔の長寿社会の実現をめざし、
ここに宣言します。

誰もが笑顔、長寿社会 推進者 5ヶ条(案)

1. 「疲れた」を、一日3回以上言いません。
2. 欠点よりもいいところを見つけます。
3. 「今の若いもんは・・・」は言いません。
4. 「今の年寄り」は言いません。
5. 「ありがとう」を言います。

誰もが笑顔、長寿社会 推進者 宣言バッジ

1. 「誰もが笑顔」、長寿社会 推進者は、高齢社会NGO連携協議会が
2. 欠点よりもいいところを見つけます。
3. 「今の若いもんは・・・」は言いません。
4. 「今の年寄り」は言いません。
5. 「ありがとう」を言います。

ピンバッジ作成の概要

<p>■目的:</p> <p>■対象者:高齢社会NGO連携協議会 会員 1万人~</p> <p>■普及・啓発方法:会員団体を通じて会員に配布</p> <p>■発注個数 初回 1万~2万個</p> <p>■デザイン:もみじをモチーフにデザイン化 担当 共用品推進機構</p> <p>■納期(スケジュール) 納期:2014年1月10日</p>



コレートに関心が集中する。国民全体がこの期間は高齢社会のことを考える。そういう機会があつていい。そうしないと高連協関係の団体で終わってしまう。広く理念を共有してもらうことが必要で、バッジは国民全体につけてもらいたい。

伊藤：拉致家族のバッジは年中つけている。

岡本：じわじわ広がって行って、最終的に国民全体に知ればばいい。そのやり方の問題であつて、アプローチとしてどういう効果的なやり方があるか。

吉田：キャンペーンは普及にはなりません。『日経新聞』でもやっている。いまや高齢社会のことは行き渡っている。ただし、すべての世代がかかわるという認識に欠けている。高連協としては、その表現としてもみじ葉の重なりがいいと思った。「もみじ」はひらがなで。

尾崎：ふたつの考え方を主張しあうのではなくて、いっしょにやれる。強化月間があつていいし、その期間をつかってシンボルを売ってもいい。対立する問題ではない。

吉田：スローガンとシンボルを先に普及させてということ。

岡本：販売促進の期間であり、バッジを普及する期間に。

上原：販売促進をだれがやるの。まずは高連協の45団体をお願いする。そのバッジなんなの、で知られて普及する。議員やテレビによく出る人につけてもらう。

堀内：青葉の春には青少年の行事が、成熟の秋には高齢者の行事が見えていい。もみじが色づく時期に、みんなで人生を省み、結実を毎年重ねて確認する。五月の総会で岡本さんから提案されて、高連協がスローガンを掲げて行動する時期。シンボルはもみじバッジでいいし年間でいい。スローガンは練り上げが必要、秋の普及期間はキャンペーンではなく。

上原：学生運動のときの議論。

岡本：「スローガン」と「シンボル」はコンセンサスができたし、残るのは三つ目の期間の問題だけ。「敬老の日」にはみんなで付けようというやり方もある。

上原：そのための日を設定してもいい。

吉田：高連協も12年になる。具体的なものはなるべく早くやりたい。スローガンとバッジからはじめたい。樋口さんも「スローガンが大事ね」といっている。バッジは見えるところで目立つ人につけてもらう。それと老人クラブ連合会やシルバー人材センター。乗ってくれば大きい。ここは金銭勘定しながらすすめたい。

尾崎：「みんなの長寿社会づくり」は健常者がやるべきこと。意味を考えてもらうチャンスとして、対立しないで両方できる。

上原：介護のバッジは4年間でやっと2万個。あとは時間、そのバッチなんなので伝わる。胸につけても目につかないと。

吉田：秋の行事をもつ団体にまずスローガンを使ってくださいとお願いします。老人クラブには「老人の日」のイベントで使ってください。

岡本：決定的に大事なのがスローガンの共有。それを議論しましょう。

伊藤：高齢社会でなくて長寿社会は合意しておく。

上原：5カ条がいい。それと「みんな笑顔で長寿社会」。

岡本：笑顔がはいっているのがいい。

鷹野：多いより三つくらいで。もみじ3枚と3カ条でいい。

吉田：もみじはばらばらはダメ。重なっていること。

岡本：「スローガン」と「シンボル」は合意して、「キャンペーン」の形はやめる。

上原：参考までにうちの7つの宣言・・・介護だから。

尾崎：ちょっと長いな。

吉田：「だれもが笑顔で長寿社会」がスローガン、5条のうち3. 4. 5条の三つ、それともみじ葉重ねで、樋口代表に相談する。堀田さんは樋口さんにまかせるといっているので。

上原：いずれは委員会が必要。

岡本：かなりコンセンサスができて、ハッピーでした。

吉田：次回11月6日の役員会までにバッジの見積もりを名古屋の業者のところで作る。星川さんがアドバイスをしてくれるので助かります。